

2021年12月24日

Press Release

弘前れんが倉庫美術館 2021年度冬プログラム

あらためまして、こんにちは！一れんが倉庫→美術館へ—

会期：2022年2月11日（金・祝）－3月21日（月・祝）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）では、2022年2月11日（金・祝）から3月21日（月・祝）まで、2021年度冬プログラム「あらためまして、こんにちは！一れんが倉庫→美術館へ—」を開催します。

当館は2020年に開館しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開館初年度のオープニングを飾る展覧会には多くの方に足を運んでいただくことが難しい状況でした。このような背景から本展では、弘前にできた新しい美術館とその作品をあらためて紹介する展覧会を開催します。煉瓦倉庫が美術館に生まれ変わる過程を記録した作品などとともに、建築の改修の様子や、地域文化にあわせて制作された所蔵作品が完成するまでのドキュメントを中心にお届けします。

また、改修前の煉瓦倉庫で3回にわたり開催された、弘前市出身で現代美術家・奈良美智の展覧会の記憶をたどり、展示します。煉瓦倉庫が美術館へと生まれ変わるきっかけの一つとも言える展覧会を振り返ることで、この場所が美術館となったことの意義を改めて考えます。

出品作家（当館所蔵作品より）

尹秀珍（イン・シウジン）

ジャン=ミシェル・オトニエル

笹本晃

畠山直哉

潘逸舟（ハン・イシュ）

藤井光

奈良美智



広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

展覧会の見どころ

弘前ならではの所蔵作品が生まれるまでの過程を紹介

当館の所蔵作品の多くは、作家に地域文化や煉瓦倉庫建築の特性に合わせた新作を依頼し制作されています。作品が生まれる過程を紹介する資料として、作家のリサーチの様子や作品の設営風景などのドキュメントを、完成した作品とともに展示します。

3度の奈良美智展から美術館開館までを振り返る展示

「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」（2006年）の関係者へのインタビュー映像をはじめ、市民の手によって煉瓦倉庫で開催された奈良美智の当時の展覧会にまつわる資料を展示します。また、明治・大正期に酒造工場として建設された煉瓦倉庫が美術館に生まれ変わるまでの過程として、建築模型や建物の改修工事の資料も紹介します。

煉瓦倉庫で開催された奈良美智展（2002年、2005年、2006年）の 当時の写真を一般から募集する企画を実施します

煉瓦倉庫で開催された奈良美智の展覧会及び、弘前れんが倉庫美術館が開館する前の《A to Z Memorial Dog》の写真を募集します。提供いただいた写真は、当館のアーカイブ資料として活用し、一部の写真は本展にて展示します。個人の思い出を募ることで、かつてここであった出来事を皆さんとともに振り返ります。

[募集期間]

2022年1月上旬～3月（予定）

※詳細は後日、当館ウェブサイトやSNS等でお知らせします

[募集内容]

1. 煉瓦倉庫で開催された奈良美智展の写真
「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」（2002年）
「From the Depth of My Drawer」（2005年）
「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」（2006年）
2. 屋外（緑地）や煉瓦倉庫内で展示されていた《A to Z Memorial Dog》の写真
(2007年～2018年)



奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年

「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」の終了後、展覧会を支えた方々のために作家が感謝の気持ちを込めて制作し、弘前市に寄贈した作品です。当初は煉瓦倉庫前の緑地に設置されていました。美術館の開館にあわせてエントランスに展示され、来館者を出迎えています。

奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年
©Yoshitomo Nara 撮影：長谷川正之

出品作家プロフィール

尹秀珍 (イン・シウゼン) YIN Xiuzhen

1963年、中国 / 北京生まれ、同地在住。
古着や中古品などを使い、近代化や都市化のなかで消滅していく個人的な記憶をすくいあげるような立体作品を制作している。2010年には、ニューヨーク近代美術館にて中国人女性作家として初の個展を開催した。



尹秀珍 《ポータブル・シティ：弘前》2020年
©Yin Xiuzhen 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: Naoya Hatakeyama

ジャン=ミシェル・オトニエル

Jean-Michel OTHONIEL

1964年、フランス / サン=テティエンヌ生まれ、パリ在住。
1990年代初頭より変容、昇華、変異などの現象に关心を寄せながら、可逆性の素材を用いた作品を制作している。ムラーノガラス等を用いた展示環境と調和する数々の大型彫刻作品で世界的に知られる。



ジャン=ミシェル・オトニエル 《エデンの結び目》2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

笹本晃 SASAMOTO Aki

1980年、神奈川県横浜市生まれ、アメリカ / ニューヨーク在住。
空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンスや、言葉、モノを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品を中心に、彫刻やインスタレーションを発表している。



笹本晃 《スピリッツの3乗》（部分）2020年
©Aki Sasamoto 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: Naoya Hatakeyama

畠山直哉 HATAKEYAMA Naoya

1958年、岩手県陸前高田市生まれ、東京都在住。
写真家。デビュー時から一貫して、自然・都市・写真術という三つの関係性に主眼を置いた作品を制作している。深い思考とリサーチのもとに撮影される静謐な作品は、文学や思想など言語表現に共通するものを感じさせる。



畠山直哉 《滤過室 2017年10月10日》（「吉野町煉瓦倉庫」シリーズ）2017-2019年 弘前れんが倉庫美術館蔵

潘逸舟 (ハン・イシュ) HAN Ishu

1987年、中国 / 上海生まれ、東京都在住。

社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。



潘逸舟《My Star》2005年 ©Ishu Han
弘前れんが倉庫美術館蔵

藤井光 FUJII Hikaru

1976年、東京都生まれ、東京都在住。

歴史的事象を題材に、社会の不可視な領域を構造的に批評する作品を、主に映像インсталレーションとして発表している。寡黙な事物たちに語り出させるその映像手腕は世界的に高く評価されている。



藤井光《建築 2020年》2020年 ©Hikaru Fujii
弘前れんが倉庫美術館蔵

奈良美智 NARA Yoshitomo

1959年、青森県弘前市生まれ。

1990年代半ば以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジアの各地で規模に関わらず様々な場所で展示発表を続ける。見つめ返すような印象的な絵画、日々自由に描き続けるドローイング作品のほか、木、FRP、陶、ブロンズなど多様な素材の彫刻作品や、空間に生命を吹き込むようなインスラレーションを制作。



奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara
弘前れんが倉庫美術館蔵 撮影：柴田祥

関連プログラム

ギャラリーツアー

会期中は学芸スタッフによるギャラリーツアーを開催します。

日時 | 本展会期中 毎週日曜日 11:00 – 12:00

料金 | 参加無料（要当日観覧券）

定員 | 10名

申込み | 不要（当日先着順）

集合場所 | 1階受付前

※その他の関連プログラムについては後日当館ウェブサイト等で発表します

開催概要

- | プログラム名： 2021 年度 冬プログラム
「あらためまして、こんにちは！ 一れんが倉庫→美術館へー」
- | 会期： 2022 年 2 月 11 日（金・祝） – 3 月 21 日（月・祝）
- | 開館時間： 9:00 – 17:00 （入館は閉館の 30 分前まで）
- | 休館日： 火曜日
- | 観覧料： 一般 800 円（700 円） 大学生・専門学校生 500 円（400 円）
※（）内は 20 名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/
障がいのある方と付添の方 1 名
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- | 一般問合せ： TEL: 0172-32-8950
- | アクセス： JR 弘前駅より
-弘南バス・土手町循環 100 円バス「青銀土手町支店」下車 徒歩 約 4 分
-徒歩 約 20 分
-タクシー 約 7 分
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS : Instagram : @hirosaki_moca
Twitter : @hirosaki_moca
Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川 (公)

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

FAX: 0172-55-5982 または E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp 宛

2021年12月24日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

あらためまして、こんにちは！一れんが倉庫→美術館へ—

会期：2022年2月11日（金・祝）－3月21日（月・祝）

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名		
ご担当者	所属部署		
ご住所	〒		
電話番号	FAX 番号	E-MAIL	
掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。		年	月 日
読者プレゼントのご希望 <input type="checkbox"/> 希望する 組 名様 (2022年2月28日迄 掲載対象) <input type="checkbox"/> 希望しない			
* 画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。			

▼希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

広報画像にはすべてキャプション・クレジットを併記してください

[1]



※[1]の画像提供は、事前に原稿を確認させていただける場合に限ります。

[2]



[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



広報画像 キャプション・クレジット

[1] 奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara 弘前れんが倉庫美術館蔵 撮影：柴田祥

※ [1] の画像提供は、事前に原稿を確認させていただける場合に限ります。

[2] 尹秀珍《ポータブル・シティ：弘前》2020年 ©Yin Xiuzhen 弘前れんが倉庫美術館蔵

Photo: Naoya Hatakeyama

[3] ジャン＝ミシェル・オトニエル《エデンの結び目》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: ToLoLo studio

[4] 笹本晃《スピリットの3乗》（部分）2020年 ©Aki Sasamoto 弘前れんが倉庫美術館蔵

Photo: Naoya Hatakeyama

[5] 畠山直哉《濾過室 2017年10月10日》（「吉野町煉瓦倉庫」シリーズ）2017-2019年

弘前れんが倉庫美術館蔵

[6] 潘逸舟《My Star》2005年 ©Ishu Han 弘前れんが倉庫美術館蔵

[7] 藤井光《建築 2020年》2020年 ©Hikaru Fujii 弘前れんが倉庫美術館蔵

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までFAXまたはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1